



特定非営利活動法人

神戸日独協会会報

BERICHTE DER NPO JAPANISCH-DEUTSCHEN GESELLSCHAFT KOBE

Nr. 329

Mai 2018

NPO法人 神戸日独協会

〒651-0087

神戸市中央区御幸通8-1-6 神戸国際会館 19F

TEL/FAX 078-230-8150

郵便振替 01160-9-18199

E-mail: info@jdg-kobe.org URL <http://www.jdg-kobe.org/>

NPO JAPANISCH-DEUTSCHE GESELLSCHAFT KOBE

International House Kobe 19F

Goko-Dori 8-1-6 Chuo-Ku

651-0087 KOBE/JAPAN

2018年度通常総会・会員懇親会のお知らせ

すでに前号にてお知らせしましたが、NPO 法人神戸日独協会は、2018年度通常総会を下記の要領にて開催いたします。

総会後には会員懇親会を開催し、会員の皆様と楽しい時間を過ごしたいと思っております。

総会及び会員懇親会の出・欠席のお返事を同封のハガキにて5月22日(火)までにお送りください。正会員で総会ご欠席の方は、ハガキの委任状に御署名をお願いいたします。

なお、総会にご出席の方は当日同封の「2018年度 総会」資料をご持参ください。

総会と会員懇親会に、より多くの会員のご出席・ご参加を心よりお待ち申し上げます。

2018年度通常総会

日 時： 2018年5月26日(土) 16:00～17:00

会 場： ユーハイム神戸元町本店ホール(3階)

(神戸市中央区元町通1-4-13 TEL 078-333-6868)

会員懇親会

日 時： 2018年5月26日(土) 17:10～19:00

会 場： ユーハイム神戸元町本店ホール(3階)

会 費： 4000円

会費は同封の振込用紙で郵便局にてお振込み下さい。領収書は当日会場にてお渡しいたします。

申 込： 5月22日(火)まで事務室へメール・電話・ファックスでお申し込みください。

「神戸日独協会会報」の発行について

神戸日独協会は、協会主催行事のお知らせと報告、ドイツに関する情報の提供、会員相互の交流の場の提供を目的に、1989年8月から毎月「神戸日独協会会報」を発行してきました。以後29年間連綿と発行を続け、本号で329号になりました。「神戸日独協会会報」は創刊時より、編集、印刷、発送などすべての作業を会員のボランティアによって行ってきました。近年では各地の日独協会でも会誌・会報が発行されていますが、「神戸日独協会会報」はそれらの先駆けとなるものであり、歴史の長さ、月刊の発行、内容の多彩さなどから誇るべき協会活動であると自負しています。

しかしながら、最近の情報伝達技術の発達が目覚ましく、この情報化時代に応じた「会報」の果たす役割や発行を支えているボランティアの確保など、昨今会報の発行をめぐる環境に変化が見られます。

情報の速報性、映像情報の提供や紙面のカラー化、会員相互の情報交換などを充実させるために、神戸日独協会は2016年5月に「神戸日独協会ホームページ」を刷新しました。この刷新により、神戸日独協会の“今”を発信し、協会として“今”知らせたい情報をわかりやすく伝え、スマートフォンからでも見やすく、わかりやすく、操作しやすいデザインとし、神戸日独協会からの情報発信の充実に努めています。

協会では実行委員会を中心に半年前から「神戸日独協会会報」の作成の現状と将来像について議論を重ねてきました。

1. 現状の問題点

☆会報発行までの作業過程

会報掲載記事の決定(毎月の実行委員会)→原稿依頼→原稿収集→紙面の編集→

用紙の搬入→兵庫県国際交流協会の作業室にて印刷(ボランティア3名)→神戸日独協会にて発送(ボランティア5名+α)→メール配信(事務局)

① 会報の印刷と発送作業を行うボランティアの確保が難しくなっていること。

協会では毎月会報の「事務局からのお知らせ」欄にて「会報発送ボランティア募集」で次回の発送の日時をお知らせしていますが、ボランティアをしてくださる方も固定化し、それぞれ70歳前後の高齢であること。

印刷をする兵庫県国際交流協会作業室は平日昼間のみしか使用できないために、印刷作業

の時間は限られますが、発送作業は週末などに変更の可能性はあります。

- ② 印刷で借用している兵庫県国際交流協会作業室の印刷機器などが、耐用年数を迎えつつあり老朽化が激しく、突発的な故障で使用不能になる事態が発生するかもしれず、耐用年数になると破棄され、それ以後は使用できない可能性があります。その場合には別の施設・設備を探す必要があり、機器使用料等の新たなコストが発生する心配があります。場合によっては印刷業者へ委託するようになるかもしれません。
- ③ 現在「会報」はゆうメールにて発送していますが、昨年値上がりになりました。発送経費の削減の為にかねてよりメールによる配信にご協力を求めています。現在メール配信は64件に留まっています。また「協会ホームページ」で発行当日から会報を読める体制が整えられています。

2. 現状の打開策

上記の問題点の打開策として、実行委員会では次の点が提案されています。

- ① 「会報」と「ホームページ」の役割を棲み分ける。
「お知らせ」などの速報性が求められるものは「ホームページ」に、連載記事、報告など読み物は「会報」に。
- ② 「会報」と「ホームページ」とに記事を棲み分けた上で、「会報」の発行を隔月、季刊、年刊などにする。
- ③ 会員に特技、お手伝いいただけることなどについてご申告をいただき、原稿執筆、編集、印刷、発送などいろいろな分野でご協力をお願いします。

特技や協力できる事項の欄を入会時の申込用紙に設けたり、改めて会員に問うている日独協会もあると聞いています。

3. アンケートのお願い

神戸日独協会では「会報の将来像」について理事会、実行委員会、お手伝いいただいているボランティアの方々とともに今後とも議論を引き続いて行っていきます。つきましては、その予備作業として会員の皆様にアンケートのご協力をお願いします。

アンケートの項目については同封の「アンケート用紙」をご覧ください、「用紙」に直接ご回答ください。「アンケート用紙」はご回答の上、5月26日の総会にご持参いただくか、今月中に協会事務室へご持参あるいはファックスあるいはご郵送でご返送してください。経費節約のため返信用封筒は同封しませんが、是非ともご協力をお願いいたします。

ドイツ語談話室

第173回ドイツ語談話室

日時：2018年4月21日(土) 14-16時
場所：神戸日独協会会議室
テーマ：日本の大学はどのように変わるべきか

今回の司会はドロテア合田様が担当され、ドイツの大学で最も一般的な学士号(医学・法学・教職を省く)は、原則6セメスター(1年は2セメスター制)で取れる事、ドイツには学生を経済的に支援するドイツ連邦奨学金法(BAFÖG)がある事、また日本との違いとして、ドイツでは高校の卒業試験(アビトゥーア)合格が大学の入学資格になるのに対して、日本では大学の入学試験合格が入学資格になり、大きく違う事も話された。次に参加者がテーマについて発言し、その一部を下記する。

—日本の大学のレベルは、海外と比べて一般的に低いし、学生のレベルも低い。また、日本の大学の国際化は非常に遅れている。

—日本の大学入試制度は、とてもひどいものだ。これを改善するには記述テストに加えて、口頭試験を実施することが必要だ。そうすることで、受験生の実力もより良く判断できるし、そうした試験のあることが、高校生の習熟レベルの向上につながると期待できる。

—推薦入学制度を持っている大学もあるが、これは本当によくできる生徒を取ることができるので、とても良い制度だと思う。

—日本における一般社会の大学生に対する評価が、本人の能力よりも、卒業した大学の名前・有名度で評価されることが問題である。

—日本の学生は、自分は将来何をしたいかという自身の目的がなく、収入の大きい就職先に有利かどうかで学校や学部を選ぶことが多い。

—このような日本人の特性は、日本の教育制度が、個人個人の考え方を育てる方向になっていない事に、その原因がある。

—日本の教育に対する公的負担や教育に対する投資は非常に貧しい。日本の教育への公負担の割合は、OECD 平均の半分にもならない。

—友人の大学教授によると、今の日本の大学生は努力して勉強しようとしめない。論文でも、インターネット検索で集めた資料をツギハギするだけだ。また、教授陣もお座なりな事しか言わない傾向がある。さらに問題は、教育・研究予算の少ない事と学費が高すぎる事。

—日本の大学の学費は、公立大学も含めとても高いと思う。また、中学と高校は、中高一貫とした方がより良い学習効果が得られる。また、大学は東京一極集中でなく、各地方にも良い大学があるのが良いと考える。

今後のドイツ語談話室の予定

第174回 2018年5月19日(土) 14-16時 テーマ：農業の今日と将来
第175回 2018年6月16日(土) 14-16時 テーマ：世界の政治

Deutsche Gesprächsrunde

Protokoll der 173. Deutschen Gesprächsrunde

Zeit: Samstag 21. April 2018, 14 bis 16 Uhr

Thema: Was sollten japanische Universitäten unternehmen, um ihre Qualität zu erhöhen

Dieses Mal hatte Frau Dorothea Goda die Gesprächsleitung und sprach zuerst davon, dass das Bachelor Studium in Deutschland in der Regel 6 Semester dauert (außer Medizin, Jura und Lehramt). Entsprechend dem Bundesausbildungsförderungsgesetz (BAFÖG) werden Studierende finanziell unterstützt. Während man in Deutschland mit dem bestandenen Abitur Zutrittserlaubnis zu den Universitäten bekommt, halten in Japan die Universitäten jeweils ihre eigenen Aufnahmeprüfungen ab. Die Gesprächsleiterin erläuterte, dass es sich dabei um einen gravierenden Unterschied handelt.

Bei der Gesprächsrunde kam es unter anderem zu folgenden Wortmeldungen:

- Ein Teilnehmer erwähnte, dass das Niveau der japanischen Universitäten und Studierenden im internationalen Vergleich sehr niedrig ist. Auch bei der Internationalisierung sind japanische Universitäten im Rückstand.
- Ein Teilnehmer findet, dass die Aufnahmeprüfungen an japanischen Universitäten sehr schlecht sind. Um sie zu verbessern, bräuchte man zusätzlich eine mündliche Prüfung. Damit könnte man die Prüflinge besser bewerten, und es würde auch die Oberschüler dazu bringen, ihr Niveau zu heben.
- Eine Teilnehmerin findet das System an manchen Universitäten gut, Studierenden mit Empfehlungsschreiben ihrer Oberschule den Eintritt zu erlauben. Auf diese Art können diese Universitäten fähige Studierende bekommen.
- Ein Teilnehmer sprach davon, dass in Japan Studierende allgemein nicht nach ihren Fähigkeiten, sondern nach dem Namen und Ruf ihrer Universität bewertet werden. Er findet, dass das sehr problematisch ist.
- Ein weiterer Teilnehmer erwähnte, dass viele japanische Oberschüler offensichtlich nicht wissen, was sie einmal machen wollen. Sie wählen deshalb Universitäten und Fachgebiete, die nach Abschluss im Beruf ein höheres Einkommen erwarten lassen.
- Eine Teilnehmerin denkt, dass das japanische Erziehungssystem nicht genug Wert auf Individualität legt. Daher werden viele Leute nicht genug zur Selbständigkeit erzogen.
- Ein Teilnehmer erwähnte, dass die Regierungsausgaben für die Erziehung in Japan sehr gering sind. Die japanischen Ausgaben sind weniger als die Hälfte des OECD Niveaus.
- Ein Teilnehmer zitierte ein Gespräch mit einem seiner Freunde, der als Professor an

einer Universität arbeitet. Dabei ging es darum, dass viele der heutigen Studierenden nicht bestrebt sind, selbst zu lernen und ihre Aufsätze mit Materialien aus dem Internet zusammenflicken. Andererseits bleibt auch der Unterricht oft nur sehr oberflächlich. Als weitere Probleme kommen noch die hohen Studiengebühren und der Mangel an Forschungsbudget hinzu.

-Noch eine Teilnehmerin sprach davon, dass die Kosten für ein Studium in Japan zu hoch seien. Außerdem vertrat sie die Meinung, dass Schulen, die Mittel- und Oberschule integrieren, besser sind, als die meist übliche Schulform, wo diese Stufen getrennt sind, und die guten Universitäten sollten sich nicht auf die großen Städte wie Tokio konzentrieren. Es sollte auch in ländlicheren Gebieten bessere Universitäten geben.

Nächste Treffen:

Samstag 19. Mai 2018, 14 bis 16 Uhr, Thema: Landwirtschaft, heute und morgen

Samstag 16. Juni 2018, 14 bis 16 Uhr, Thema: Weltpolitik

行事参加感想文

「ドイツビジネスセミナー」に参加して

会員 中島 英樹

3月7日(水)に行われた兵庫県国際交流協会、兵庫EU協会他主催の「ドイツビジネスセミナー」に参加しました。セミナーのタイトルから見て実務者を対象としたセミナーと思われたので受講をためらいましたが、演題の一つ「ブレグジットのその後～今こそドイツ進出の好機～」に興味を魅かれ参加しました。

講演はデュッセルドルフに拠点を持つ弁護士とその日本拠点の弁護士二人で行われた。講演の第一部が、日本企業がドイツに拠点を確保する方策の中で有効なM&A(企業買収と合併)の魅力とM&A戦略について、いろいろな角度からの統計をもとに話された。ここ数年ドイツに対するM&Aを含めた直接投資は増えていて今後もますます増加するものとみられている。日本企業に投資先としてドイツが選ばれる理由のいくつかの例として、ドイツには日本に類似の法的環境があることと、安定した税制や政治状況にあることなどがあげられた。講演の第二部では、日本企業がM&Aを含め実際にドイツに進出する際に必要となる、拠点設立のための情報収集方法や設立のための登記等多岐にわたる準備作業と社屋や社宅を確保すること等々の実際の設立作業について説明がされた。更に、設立から実際の拠点運営に必要な労働法を始めとする各種法律が示された。

以上が講演の大雑把な内容ですが、参加しての感想は、一つは、定員を大きく上回る多くの方が参加していてドイツ進出への関心の強さが感じ取れたことです。また、参加者の多くは神戸市所在ないしは、県内所在の企業の企業主と担当者と推測されますが、海外に向かって進出して行こ

うする結構強い活力が感じられ、頼もしく思いました。また、日本国内での企業買収や合併その他支店設立でも、多岐にわたる情報収集や手続きをもれなく、計画通り行うことは、なかなか骨の折れることと思う。まして、文化や法律を始め諸制度の違うドイツでスムーズに行うことはなかなかむつかしいので、今回のような現地に活動拠点をもち、現地の諸事情に明るく実際に活動している弁護士等の選定も大きなポイントになるかと思われた。講演を聞きながら、自分の現役時代で、確か1980年代から90年代にかけて、米国の生産物賠償の賠償金が高騰し、生産物賠償責任保険の手当てが難しくなったことがあった。このことは、米国へ製品を輸出しているメーカーや輸出業者や、現地に生産拠点をもち自動車や工作機械メーカー、更には米国進出を計画していた企業に大きなインパクトをあたえ、大きな障害を抱えることとなり、各社とも対策が急がれたことがあった。これに対する米国の大手保険ブローカーなどが、日本の保険会社などとタイアップして、米国向けの輸出メーカー等の企業に最新情報を提供するビジネスセミナーが各地で開かれたことが懐かしく思い出されました。

前述のように最初は受講をためらいましたが、現地事情を熟知している弁護士ならではの大変興味深いセミナーで受講してよかったと思いました。交流協会からはメールマガジンでイベントの案内をいただいている、これまで三回講演会に参加しましたが、これからもできるだけ積極的に参加を心がけたいと思いました。

キール市フンボルト高校生の来神

5月27日(日)から6月5日(火)までシュレスヴィヒ・ホルシュタイン州キール市のフンボルト高校生が、姉妹校である兵庫県立国際高校を訪問するために来神します。

現在引率の Kathrin Bonn先生とメールにて交流の具体案を計画しています。決まり次第、協会のホームページにてお知らせします。

実行委員として神戸日独協会の活動に参加しませんか

神戸日独協会の主要な年間の活動は総会及び理事会によって決定されますが、日頃の活動は実行委員及び会員によって行われています。実行委員は定款上の役職ではなく、会員のボランティアによるものです。毎月第3日曜日に実行委員会を開催し、会員の方々が希望するあるいは実行委員のアイデアによる催し物を企画し、準備し、実行しています。神戸日独協会は会員の皆様の積極的なご支援を必要としています。

次回の実行委員会は5月19日(土)16時10分より協会会議室にて開催しますので、奮ってご参加ください。

事務室からのお知らせ

会報発送ボランティア募集

会報の発送を手伝ってくださる方を募集しております。次回の発送予定日は6月14日(木)です。お手伝いいただける方は、事前に事務室へご連絡(TEL/FAX 078-230-8150)の上、12時半頃事務室にお越しください。

これからの神戸日独協会の催し

日時	催し	会場	申込〆切 など
5月19日(土) 14:00~	第174回 ドイツ語談話室	神戸日独協会 会議室	当日参加可
5月19日(土) 16:10~	実行委員会	神戸日独協会 会議室	当日参加可
5月26日(土) 16:00~	2018年度通常総会・ 会員懇親会	ユーハイム神戸 元町本店ホール	5月22日(火)まで

「神戸日独協会会報」についてのアンケート

お名前: _____

お答えは該当番号に○をお付け下さい。

1. 「会報」は郵送されたものを読んでいますか、神戸日独協会のホームページから読んでいますか。

- ① 郵送されたもので読んでいる
- ② ホームページで読んでいる。

2. 1. で①郵送されたものを読んでいると答えた方にお聞きします。

- ① 今後も会報の郵送を希望する
希望する理由もお書きください

(_____)

- ③ 今後はホームページで読むので郵送は不要

3. 「会報」は全ページ読みますか、興味のある記事だけを読みますか。

- ① 全ページ 読んでいる
- ② 興味のある記事だけ読んでいる
- ③ その他 具体的にお書きください。

(_____)

4. 現在会報は毎月発行されていますが、発行回数は年何回が適当だと思いますか。

- ① 毎月発行で年12回
- ② 2か月ごと年6回 (_____ 月)
- ③ 3か月ごと年4回 (_____ 月)
- ④ 4か月ごと年3回 (_____ 月)
- ⑤ 6か月ごと年2回 (_____ 月)
- ⑥ 年1回 (_____ 月)

②～⑥については、発行月をお書きください。

5. 今後、会報に載せてほしいことがありましたら、具体的にお書きください。

(_____)

ご協力ありがとうございました。

今後も会報の郵送を希望するを選ばれた方は、アンケートを必ずご返送ください。

また、会報の印刷や発送のお手伝いいただける方はその旨もお書きください。

(_____)